

常松大谷遺跡 つねまつおだにいせき & 常松菅田遺跡 つねまつすがだにいせき



いにしへのパズルに挑戦!

GW明けから調査が始まった常松大谷遺跡では、調査区の周りに側溝と呼ばれる深さ50cm、幅80cmの細い溝を掘って、土の堆積状況を確認しているところです。すると、その溝の底から1点の須恵器の破片が出土しました(写真1)。この破片には、なにやら文様が見えます。あれ、この文様どこかで見たことあるような…。

じつはこの文様(拡大写真参照)、昨年度の調査で出土した大きな須恵器の甕についていた格子状の文様と同じなのです。早速、現場からこの破片を持ち帰って確認してみたところ…写真2の赤い部分に見事に接合することができました!しかし、写真でもお分かりのようにこの甕にはまだ見つかっていない部分が多くあります。今後もしかしたら、この須恵器の甕の破片がぞくぞく出土して完全な形に復元できるかも…?今後の調査にご期待ください(^▽^)

※接合とは、土器と土器をパズルのようにくっつけていく作業のことです。



写真1 須恵器の出土状況



写真2 ぴったりつながりました(´0´)

下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき

ちょっと一服…。

下坂本清合遺跡では現在、江戸時代から近代にかけての水田跡の掘り下げを行っているところです。

そのうち、江戸時代の終わり頃から明治時代の間に使用され始めたと考えられる水田の水路跡のなかから、江戸時代の通貨である「寛永通宝」と煙管の雁首(たばこの葉を詰める金属部分)が見つかりました。煙管の雁首

は、その形から、江戸時代の終わり頃のものだと考えられます。

農作業の合間に、たばこを吸ってちょっと一服…。当時ののどかな田園風景が目に見えてくるような発見でした。



水路跡を掘り下げているところ



水路跡からみつけた煙管(左)と寛永通宝(右)



鳥取西道路の遺跡を掘る!

第61号 2014年5月22日

4月から各遺跡で発掘調査が次々に始まりましたが、下坂本清合遺跡では、さっそく銅でできたはんこ(銅印)が見つかりました!

県内で6例目、鳥取西道路の発掘調査では2010年度の高住平田遺跡に続いて2例目となる銅印の出土です。さて、今回の銅印はどんなものなのでしょうか。



古代の人のマイはんこ?

日本で銅印が使われ始めたのは奈良時代(約1,300年前)からで、最初は役所などで使われていました。奈良時代の終わり頃からは、貴族や地方の有力者、お寺などでも銅印を使うようになります。

今回、下坂本清合遺跡で見つかった銅印は、印面が2.3cm四方、全体の高さは2.5cmほどあり、手で持つためのつまみ部分には紐を通す孔があいています。これらは今まで国内で出土している多くの銅印の特徴とよく似ています。



高住平田遺跡出土の銅印

下坂本清合遺跡の銅印の印面には「吉」の一文字が浮き出るように彫られています。一文字の銅印は、貴族など身分が高い人の名前から一字を取ることが多かったようです。今回出土した銅印は、現代の田んぼの土の中から見つかったため確かなことはわかりませんが、奈良時代から平安時代にかけての有力者が、遺跡の近くにいたのかもしれないね!

ちなみに、高住平田遺跡の発掘調査で見つかった銅印には、「木」の一文字が彫られていました。鳥取西道路の調査では「吉」と「木」の銅印が見つかったことになりました。「吉」「木」…。出てきた文字を合わせると、誰かの名前が完成したりして…!?

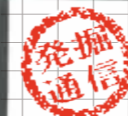


下坂本清合遺跡出土の銅印

(公財) 鳥取県教育文化財団
調査室

〒680-1133
鳥取市源太12番地

TEL: 0857-51-7553
FAX: 0857-51-7550
メールアドレス:
tottori-kyobun@kyobun.
sakuratan.com



5月は暑すぎず寒すぎず、ちょうどいい気候で発掘調査もどんどん進んでいきます。

これから続々とでてくる発掘調査の成果は、調査室のホームページにも掲載していきますので、そちらのほうもご覧ください!

鳥取県教育文化財団 調査室

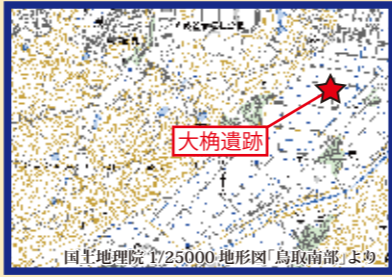
検索

大楠遺跡

だいかくいせき

ちょうさじゅんぴ

調査準備！！



大楠遺跡の現場が慌ただしくなってきました。現地では、調査地の壁が崩れないように鋼矢板で囲ったり、作業員さんの休憩舎を建てたりと発掘調査のための事前準備を急ピッチで進めているところです。

昨年実施された試掘調査では、奈良時代から平安時代にかけて（約 1,100～1,300 年前）の溝が見つかりました。弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が中心である大楠遺跡ですが、少し新しい時代についても発見が期待できそうです。

これから本格的な調査に入り、順次調査成果をお届けしていきます。来月どんな発見があるか、ご期待ください(・ω・)/

▶調査地に鋼矢板を打込むクレーン



ここで打つ(ア)!!

▶打込まれた鋼矢板



松原田中遺跡

まつばらたなかいせき

発掘調査スタートです！！



今年度の発掘調査は、昨年度調査を行った1区の東側隣接地の2区と、さらに東側にやや離れた4-1区の2ヶ所の調査を行っています。

このうち、2区からは近世（主に江戸時代）以降の農作業で生じたと思われる耕作溝が多く見つ

かったので、その様子を地上 22mの高さまで昇ることのできる高所作業車を使って写真の撮影を行いました。

現在は耕作溝の調査を終了し、さらに古い時代の遺構や遺物を見つけようとしています。

※耕作溝…畑を耕作してできた溝

▲高所作業車



▲松原田中遺跡から吉岡温泉街を望む(写真左奥)

耕作溝の検出状況▶



高住宮ノ谷遺跡

たかすみみやのたにいせき

いきなり遺物発見！！



すえきはそう

重機による表土の掘り下げ中に、ほぼ完全な形の「須恵器罎※」が見つかりました。古墳時代終わり頃(約 1,400 年前)のものです。

罎は古墳に納められる品としてわりと一般的ですが、なぜ谷部で見つかったのでしょうか？尾根上にある古墳から転げ落ちたのか、谷がこの時期何かに利用されていたのか、いろいろ推測できそうです。表土中からは古墳時代から中世にかけての土器のかけらが見つかり、小さな谷ですが周辺が長い間利用されたことが分かります。

今後の調査が期待される、ささやかな発見です。



表土の中から見つかった罎(はそう)



※罎は写真のように胴体に小さな孔があるのが特徴の壺形土器で、ここに竹などを差し込んで「注ぎ口」として使ったと考えられます。

高住牛輪谷遺跡

たかすみうしわだにいせき

いよいよ調査開始！！

GW 明けからいよいよ発掘調査が始まりました！！

平成 24 年度に行った調査では、縄文時代から中世にかけての遺構や遺物が見つっています。特に、古墳時代終わり頃(約 1,400 年前)の遺物には、二口カマドや陶棺といった、かなりのレア物も含まれていました。

さて、今年度はどんな発見が待っているのでしょうか!?

レア遺物その① 二口カマド



土製のカマドです。一般的なものはナベの掛け口が1つですが、このカマドには2つもあります。なんと、今のところ全国でもこれ1つだけしか見つからないようです(*_*)

レア遺物その② 陶棺



焼き物のお棺(の破片)です。鳥取県では10例ちょっとしか見つかりません。陶棺は古墳に納められる場合が多いので、近くに古墳があると考えています。今年度は古墳が見つかるかもしれません!!



まずは重機で表土掘り。掘りすぎないように慎重に…。毎度のことながら緊張します(´_`)